

文教厚生委員会記録

平成24年2月14日(火)
午前10時00分 開 会

○山田清一委員長

皆さん、おはようございます。

ただいまから、地域ふれあい会と文教厚生委員会との意見交換会を始めます。

本来ですと、我々議員が皆さんのもとへ伺ってご意見を伺うのが筋でございますが、今回は、通常はここで議員が議論をする場として、この機会にこの場にお越しいただきました。天気も悪い中、またお忙しい中お越しいただきましてありがとうございます。半田市議会では、開かれた議会を目指し、議会報告会をこれまで2回やってまいりました。そして3月に第3回目が行われます。また、おでかけ委員会、市民の皆さまのもとへ議員個人ではなく、議会として皆さまのもとへ伺うという取り組みを始めた、これが文教厚生委員会の1回目でございます。文教厚生委員会は、今年の調査テーマが、「支え合う高齢社会のまちづくり」として、まさしく地域ふれあい会の皆さまの活動が調査テーマにぴったり当てはまると思っております。今回皆さま方をお願いをしたわけです。日頃の地域ふれあい会の活動を踏まえて、議員と意見交換ができればと思います。

これから伊東会長にご挨拶をいただいた後、各議員が数カ所の会場に参加させていただいた感想をお話させていただいて、その後皆さま方から、日頃問題を抱えている事、ご意見でも構いません、そういうことを伺いたいと思います。今日、限られた時間でございますが、よろしくをお願いします。

○地域ふれあい会会長

おはようございます。今日は私どもの地道な活動にご注目いただきまして、このような会を開いていただき、また関心を持っていただき、救われる思いです。ありがとうございます。月に2回、2回といいますと、参加者の方のためには毎週あってもいいのではないかと、思いましたが、スタッフのみんなと一緒にやっていくということでは、少し大変なことでもあるので、月2回でも、年間24回やっている、それがもう10年、11年続けていますので、継続は力なりという言葉もあり、すごいものを感じております。私も自分自身の老後の生き方を考える中で、自分の住む町で自分の役割がささやかですがあるということは、かすかな埃でありますし、自分の生き方に大きな自信にもなっていくと思っております。町の中でお年寄りに会うと、ニコニコと挨拶をしてくれたりして、来てくれてる人だなと思って、みんなも私どもの活動の中で喜んでくださっている、そして長い目で見ると、ピン・ピン・コロリの間まで元気で来てくれたのにお葬式だったり、2〜3ヶ月くらいで亡くなっているんです。歌ったり、体操したり、大きな声でしゃべったり、通って来てくれる、そういう生活の中に、大事なことが位置しているんだと改めて考えさせられています。私自身も皆さんからパワーをもらっているということを感じています。

○山田清一委員長

ありがとうございました。まずは議員から、意見をお願いします。

○成田吉毅副委員長

上池の岡田さんの体操に参加して、自分の体が硬いことが分かりました。40歳代でも十分体操になるなど。皆さん割とスムーズにやっけていらして、岡田さんの優しい口調で、冗談を

交えながら、とてもいいと思いました。参加してみて驚いたのが、いつも来ている方が欠席されていて、どうしたのかと聞くと、誰々さんは電気屋に行っていて家にいない、ということで把握されているのが、地域の力だと思い、継続してやっている活動だからこそだと感心しました。体操のためのゴムやボール、バスタオルを床に敷いてやるというような準備もできていて、回数を重ねているからこそできることだと思いました。残念だったのが、男性の方が1名しかいなくて、こうして各会場で活躍されている方も女性がメインですし、いかに男性の方を仲間に入れてやっていくのが課題かなと思いました。岡田さんもほぼ10年やっていて、前はやってあげる立場だったけれど、今はみんなと一緒にやるような感じになってきた、というお話をされていました。私は、それもいいことだと思って、同じ年代の方とできるのはお互いにいいところではないかと思います。心配なのは、後継者がなくてああい活動がなくなってしまうことです。何らかの形で次の方を育てるとか、今のノウハウを活かして「岡田さんのDVD」を作ったりとか、ということができたらいいと思いました。

ふれあい会が発足して10年ということで、新しい展開をしていく時期にきているのかなということで、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

○竹内功治委員

私は、向山公民館と、亀崎地域総合福祉センターに参加しました。向山公民館では、健康体操と坊主めくりをやって、百人一首をさわったのも20年ぶりくらいで、懐かしい思いでした。亀崎では、加藤接骨院の若林院長が、転ばないように、という講義を、その前に体操をしました。どちらも男性が少ないことが気になり、男性が増えるような活動内容が何かないかと思いました。向山の坊主めくりでは、ルールも覚えながら頭も使っていることだと思いました。健康体操でも、思った以上に体を動かしていてこれもいいことだと思いました。このような活動は参加者を増やす取り組みが何かできないかと思いながら参加させていただきました。亀崎の若林院長も、こういう活動は地域でやっていきたいということでしたので、参加した方だけではなく、他の方にも広がるようなことが進んでいくといい。転ぶということは老化を進める原因の一つだということでしたので、こういう活動はもっと広めたいと思いました。

課題としては、男性を増やすこと、周知も含めて参加者をどう増やすかということで、やっていることは大変立派なことだと思います。

○石川英之委員

上池公民館に参加しました。成田副委員長と同じくらい体が硬く、48年間そういう体と付き合っているのも、今更どうにもならない。当日は寒い日でしたが、予定どおり皆さんが来られて、こんな寒い日によく皆さん歩いてこられたと第一印象を持ちました。有脇地区に住んでいるのですが、ふれあい会がないので、ぜひ誰か巻き込んで皆さまの仲間に入れてほしいと思いました。

○渡辺昭司委員

今年は文教厚生委員会で介護予防というようなことをやっているのに、こんな体系で自分の介護が心配です。協和区民館に参加しまして、プログラムや内容がきちんと確立できていると思いました。課題としては、区や行政を含めた中で、こういった形でこういうものに参加してもらおうのかということだと思いました。祖母が92歳で、父が70歳少し前ですが、岩滑にはふれあいセンターがありますが、そういう場にも出かけていっています。どのよう

に地域の方が参加していける環境をつくるか、というようなことをご意見をいただければと思います。

○中村宗雄委員

協和区民館に参加しました。頭の体操の折り紙と、健康体操で軽い運動を体験しました。この折り紙で、辰を折っていくんですが、難しくて手先が器用でないとうまくできないと感じましたし、体操は体に負荷もなく皆さんが楽しそうにやっていたのが印象的でした。会場が少し手狭だと思ったし、参加者が全員女性でした。もうひとつ思ったのが、当日誕生祝いをされる方が3人いらっしゃって、「ハッピーバースデー」を歌うのに、その方の名前がよく分かっていなかったというのが、お互いのコミュニケーションはどうかかなと。スタッフと参加者の絆はあるが、横の絆が薄いのかなと感じました。この事業の将来をみますと、伊東会長が言われたピン・ピン・コロリが、望むべき最終形なのかと、これが目的ではなくて、最期の瞬間までどう自分らしく生きるかということが一番大事なことでと思いますし、そのために地域ふれあい会の方に日頃活動していただいていると思います。伊東会長が言われたように、継続は力なりということと、無理をすると長く続かないということの2つをうまくかみ合わせながら、一緒に知恵を絞ってやっていきたいと思いました。

○山内悟委員

協和区民館と西成岩公民館に参加しました。協和区民館は他の委員と一緒にしたので、同じような感想です。協和区民館に参加されているお年寄りの方が、老人会にも誘われたということで、それがコミュニケーションを広げる場になっているということだと思います。西成岩公民館では、輪投げと的当ゲームをやったんですが、ゲームでしたので終始笑いが絶えない明るいふれあい会でした。昨年と比べて人数が倍になったということで、活気がありました。参加者のお話を聞くと、楽しみにしている、おしゃべりするのが楽しいとかいうことを多く聞きましたので、比較的うまくいっていると感じました。男性がいませんでしたが、次回はお好み焼きを作ることでしたので、こういうことなら男性も参加しやすいのではないかと思います。

○山田清一委員長

今議員のご意見を伺いましたが、ふれあい会の皆さんにお聞きしたいことをお願いします。

○石川英之委員

皆さんにお聞きしたいのですが、皆さんは各会場の代表の方だと思いますが、皆さんを支えてくれるスタッフの数をお聞きしたいです。

○亀崎地域総合福祉センター

健康推進員という制度が昨年まであって、お手伝いという形でやっていただいていたので、その方たちは2年間やってくださっていて終わるときにこちらのスタッフになっていただけるように声かけをして14人のスタッフを確保しています。7人ずつ、ですから1人当たりでは月1回のボランティア活動です。それでうまくいっています。参加者は20人程度。

○乙川公民館

スタッフ13人、参加者は名簿上17人で、常時10人強の出席があります。スタッフは謝礼のこともあり、毎回7人でやっています。7人以外の方でも、謝礼は出ませんが出てもらっている時もあります。スタッフの後継者が、どの会場もそうだと思いますが、見つかりません。

○大矢知コミュニティセンター

参加者は一番多いときで15人、常時12か13人くらいだと思います。スタッフが少なく、7人いるんですが、それぞれの事情ができて、いつも来られるのは5人です。後継者の問題で悩んでいます。

○向山公民館

参加者は名簿では17人ですが、病気がちだったり、遠方の方が自転車に乗るのを止められたりして来られなくなったりして、12、13人の参加です。スタッフは8人でまわしています。基本的には、予定のないときには8人全員出ています。予算は7人分しかついていませんが、可能な時は出て、和気あいあいとスタッフと参加者ともに楽しくやっています。

○上池公民館

先日はご苦勞様でした。見るからに体が硬いということがよく分かりました。参加者は、登録数は20人、常に来るのが12から15人くらいで、食べるものを作るときには多く集まります。体操とかハーモニカなどでは少なくなります。スタッフは、登録数は7人ですが、実際には5人くらいでやっています。先日アルバムをお見せしながら、10年経つんだなど、10年もやっていると、私たちも参加者の方へ行かなくてはいけない年齢になってきているので、そういう問題もあります。スタッフの問題が多く考えさせられます。唯一、白一点の男性の方がずっと来ていただいています。楽しんで来ていただいています。男性の参加がないということを言っていたんですが、議員さん方がその立場だったら参加しますか。男性と女性では考え方が違うんです。奥様と一緒におみえになった方もいるんですが、嫌がっていて、やっている事がたるいというような受け取り方があるのかなと思います。そういう問題を解決しないと、男性の参加者も増えないのではないかと思います。巷では、男性の料理教室などもあります。どうしても必要にかられて通うのかもしれませんが、こちらの方はハードルが高いようです。

○岩滑公民館

参加者は35人以上いると思います。スタッフは12人です。最近も2人入っていただいて、男性のスタッフも4人になりました。男性も、こんなことやれるか、というような雰囲気もなく、折り紙とか体操も楽しくやっていたような気がします。工作のベテランの方がいて、体操もスタッフが多くいて、音楽もコーラスをやっている方がいて、そういう面では不自由なくやっています。順調にいったような気がしています。

○半田北区第二区民館

街中なので、という理由を言うわけにはいきませんが、地域性なのか、岩滑や板山などでは誘われると参加してくれるとか、男性の体操教室などもある面もあってふれあい会にも和気あいあいと出て来られるわけですが、半田北区でも始まった当時は男性が3人いました。3人とも亡くなり、現在は男性はいません。スタッフは7人で、参加者は10人ですが、出席してくるのは2から5人程度です。なぜ来ないとか、チラシを配って誘い出そうとしているんですが、なかなか人数は増えません。これからの課題は、スタッフの年齢が高くなっている、参加者も交えていろいろな計画を立てたり、参加者が指導者になっていく、そんなときがくるのかなと思っています。人数の獲得は一生懸命やっていますがなかなか集まりません。

○住吉公民館

他の地区と違って、やり始めてまだ5年です。参加者は名簿では20人ほどで、来ているのは少ないと7人、クリスマス会やお好み焼きなどのときは20人以上になることもあります。内容としては、体操の先生もいらっしゃいますし、趣味でいろいろなことが好きな方もいらっしゃるので、なるべくそれらを利用し、その他では人形劇ができる人を募ったりして、だんだん良くなってきていると思います。唯一、男性スタッフが一人いるんですが、参加者に男性がいないという状況です。清城に憩の家ができるようにも聞いていまして、そちらに男性の方が行かれるのかなと思いますので、ふれあい会が少なくならないように頑張りたいです。

○東区民館

男性の参加者は以前いましたが、今はいません。昨年までは20人くらい登録されていたのですが、高齢になって抜けてしまって、現在は常時16人が来ています。スタッフは7人ですが、高齢にもなってきたし、家庭の事情もあるので、スタッフを集めたいのですがなかなか増えてきません。無理なときは休んでもいい、というふうで7人を減らさないようにしています。今、88歳の方が最高齢、若い方だと71歳の方が参加してくださっています。10年ほど前に始めたときは、全然参加がありませんでした。保健センターでひまわり会という障がい者の教室をもって、その後を3年間来てもらっていたので、地元の方ではない障がい者の教室があった。だから自立の方がなかなか集まってこなかったのかなと思っています。市とも相談して、回覧を回したりした結果、だんだん浸透してきて、現在19人の登録があります。私たちがやっていることは、体操や手芸、ゲームなど、皆さんと同じようなことです。

○協和区民館

協和というところは地域が非常に広くて、年齢幅も大きいので、参加者同士の絆がないんじゃないかというお話もありましたが、日が浅い方は全員が把握できるというところまで言っていないのが課題だと思います。場所ですが、2階に広いホールがありますが、足の悪い方もみえるので、狭いですが1階の会場でやっています。議員さん方が来ていただいたときは18人の参加で、楽しくやっているところを見ていただけたと思います。

○神戸公民館

12年前に板山でスタッフは5、6人いたのに、参加者が1人だったんです。どうしようかということから始まって、私は神戸公民館に変わって、スタッフは7、8人、参加者も20数名登録はあるんですが実際には20人弱。手工芸をやるときは、スタッフ1人で3人くらいをみるという感じで、今ちょうどバランスがとれています。男性の参加者が1人、気持ちよく来てくださっているんですが、男性は少ないです。こうなったら開き直って、女子力でいこう、なんて思っています。

○神戸老友会東地区憩の家

スタッフは7人で、毎回ほとんどの人が来てくれます。一番最初は保健推進員の経験者が中心で、その友人を巻き込んでいい雰囲気です。参加者は、23年度になってから70歳代の方が5、6人入ってくれて、22人だと思います。いつも来てくださるのは15、16人、昨日は少し寒かったので12人で、少し少なかったです。男性は90歳が1人、近所の知り合いの人とおしゃべりするのもいいんじゃないかと思っています。最高齢が98歳、とても元気で前向きな方なんですけど、夏暑かったせいもあって、おうちの人に止められ

て出してもえなくなつて、最近寒いのでお休みしているんですが、元気に頑張ってくれているので続けたいと思います。スタッフが私くらいの年の人が3人と、少し上の人が残りの方なので、この先10年くらいは頑張るつもりで入るんですが、今のうちに若い方を引き込みたいと思つているんですが、誰に声をかけたらいいかということに迷つているところです。

○西成岩公民館

先日来ていただいたときはゲームだったので、参加者も28人と多くて、楽しくやれました。参加者は登録が31人、昨年末に1人死亡して30人になりました。その方も、昨年6月くらいまでは参加してくださっていました。あまり寝込まず、ふれあい会に来てくださる方はそういう方が多いようで、成果が出ているのではないかと思います。参加者は最近増えて喜んでます。老人会へ個々にお宅を回った際に、ふれあい会の方が楽しいんだ、と言つていただいて、ふれあい会としては嬉しいのですが、老人会がだんだん減つてきて成り立たなくなりそうです。スタッフは7人いて、そのうち民生委員が3人いらつしやつてお忙しくて、7年過ぎてだんだんアイデアも切れてきまして、新しい人になつてもらいたいと思つていますがなかなかできません。スタッフに男性が1人でもいらつしやるとそこへ入りやすいのかなと思つます。

○成岩公民館

スタッフの1人が昨年12月に亡くなられたので現在8人です。そのうち男性が2人います。利用者で男性は6人登録されていて、ほとんどが出てきてくれています。ただ、手芸をするときなどは非常に不便です。男性は針仕事はやらない、折り紙などで小さなものを作るということになるとそれも放棄される、そういうところが少し困るなと思つますが、来ればそこでお話をしているということと、遅れてでも来てくださるということで、楽しんで帰つてもらっているんだろうと思つます。利用者は登録でいうと42人いますが、実際出てくるのは32人です。ずっと30人を超えていまして、手芸ごとをやろうとすると、女性のスタッフ6人で教えるというのは厳しい部分があるんですが、ある程度のところまで作つておいて最後の段階に近いところだけ作つてもらつて完成、という状態にしています。私たちの後を継いでもらいたいという気持ちで、若い人に声をかけているところです。

○本板山福祉会館

参加者が21人いますが、常時みえる方は14、15人です。おやつ作りとかクリスマス会というときは増える、勉強会みたいなことになると減ります。それが悩みといえは悩みです。土地柄か、大人しくて、何かやりたいことがありますか、と言つても返事がない。先日、お雛様づくりのときは、折り紙は嫌いだと言われて、「だから今日は折り紙にしたんだよ」と言つて大笑いしたりしました。スタッフは現在6人ですが、仕事の都合とか用事ができたとか、3人しかいないときもあります。スタッフがなかなか増えないので、少ない人数で頑張つています。クーラーなし、冷蔵庫なしという所でやつていまして、おやつ作りなどでも苦勞してやつています。先ほど、参加者同士で名前が分からないという話がありましたが、板山は名前を読んで出席をとるので、名前を知らないということはないです。帰るときには皆さんお礼を言われて、そのときにスタッフは、よかつたと感じます。

○山田清一委員長

ありがとうございました。他に議員からありますか。

○中村宗雄委員

一言に地域ふれあい会といっても地域性もありますし、問題が違うということが分かったんですが、スタッフが足りないところもあり、参加者が必要だということもあり、ネタが尽きてきたときところもあったり、スタッフが多くても7人分しかお金が出ないとか、設備の問題があったり、個々に違うと思うのですが、地域ふれあい会を継続させていくには、これが必要なんだということの一つだけ端的に教えてください。

○亀崎地域総合福祉センター

地域の中でのお年寄り確保。福祉センターですので、比較的元気なお年寄りも活動していて、その中で支援1くらいになっている人たち、近所でも声をかけるんですがなかなか入ってくれないというのがネックです。

○乙川公民館

スタッフの後継者です。今は人数が足りているように思いますが、保健推進員からの流れが切れた時点で、スタッフも高齢が進んで、新しい人が全く入ってこなくなったので、後継者が上手に回るようなシステムにしていきたい。個々で誰かを誘うとかではなく、システムの的に上手に回るようにしていきたいです。

○大矢知コミュニティセンター

スタッフが足りないです。常時出られるスタッフは5人ですが、介護とか、健康状態とか、仕事を持っていたりして、先細りといった感じです。

○向山公民館

先に言われた方と同じく、スタッフの問題と参加者の問題もあります。スタッフの中には65歳以上は会員になれる年齢ですが、70歳以上でスタッフをやっている方も2人います。参加者を増やす方法としては、老人会の会長さんにもお願いして、民生委員のふれあい昼食会などでも宣伝させていただいて、声かけはしています。現実にはお1人ずつ声をかけて誘わないと無理だと思っています。

○上池公民館

先の方と同じで、スタッフの後継者、最初から10年間同じスタッフでやっけていまして、先日もスタッフが1人亡くなりましたので。50歳代から60歳代前半の方がいてくれるといいのですが、なかなかそうはいきません。親の介護とか、仕事をやってみえる方も多いし、分かるんですよ、でも私たちは仕事もやって親の介護もあってもやってきたが、と思っているんです。参加者は、個々で参加者同士が呼び合って連れて来てくれます。

○岩滑公民館

皆さんと同じように、スタッフが参加者にもなれるような人たちばかりですので、スタッフを後継してくださる方が欲しいです。

○半田北区第二区民館

スタッフと参加者両方ほしいです。個人的な考えですが、参加している人たちは比較的元気な人で、弱った人は来ないんです。だから、参加者が全員100円ずつワンコイン持ってきたらどうかと思います。そうしたら市役所としても予算を教育などにまわせるのではないかと、ずっと考えています。

○住吉公民館

スタッフがみんな60歳以上になっているので、50歳代の方が入っていただけると、ローテーション組んでもいい方向に持っていくことができるのではないかと思います。参加者

の方も、人生の大先輩で、いろいろな先生をやってこられた方も多くいらっしゃって、歌とか三味線とか、趣味に関しても人形とか、そんなことができる方もいっぱいいらっしゃるんです。住吉では、参加者に先生としてやっていただいたこともありますので、事務的なことをスタッフで運営していこうとすると、50歳代くらいの方に来ていただけるといいと思います。

○半田東区民館

スタッフの後継者が欲しいです。区民館なので施設のことを言ってもいいかわかりませんが、トイレが男性と女性が一つの部屋になっていて、暖房便座でないで、寒い時期は高齢者で血圧が上がったりということが起きなければいいが、ということのを常に心配しております。

○協和区民館

今はスタッフに恵まれています、5年先、10年先のスタッフは入ってきて欲しいと思います。保健推進員制度がなくなって、これから新しいスタッフが必要だと思います。

○神戸公民館

特に不平はありません。スタッフも先月2人入っていただいて、先が楽しみです。男性ふれあい教室というのをつくったらいかがでしょうか。スタッフも男性、参加者も原則的に男性というように。男性料理教室に男性の方は結構来てくださるので、どこかへまず1か所作るというのを、今ふとひらめきました。

○神戸老友会東地区憩の家

先になってからのスタッフが心配です。男性の方が来なければ、それはそれで女性だけで頑張ります。

○西成岩公民館

困ったことはないんですが、この先のスタッフは考えておかないといけないと思います。神戸公民館のスタッフになられたのは、西成岩公民館の参加者でみえた方です。仕事が定年になったからということで参加者として来てくださったけれども、それならまだスタッフができるからということで神戸公民館にいついていただきました。私は男性を増やしていきたいと思っています。

○成岩公民館

公民館の2階でやっておりまして、そこまでスリッパを履いて上がってくる、怪我でもしないかと心配です。スタッフの後継者は、50歳代の方といっても仕事をしている方が多いので、厳しいと思いますが、皆さんと同じくスタッフが課題です。

○本板山福祉会館

参加者の平均年齢が83歳で高齢です。先日お誘いしたら、知っている人ばかりだから厭だという人もみえるんです。もう1人の方は市報を見てきた、という方もいる。参加者がなかなか入ってこないんです。

○山田清一委員長

これからふれあい会の皆さまで、これだけは言っておかなければいけないということがあればお願いします。有協地区にふれあい会がないことについて。

○地域ふれあい会

平成20年に亀崎とは離れているので、有協にも高齢者はたくさんいるのでふれあい会を

作りたいと思っていました。当時の公民館長が有協公民館ではやってないのはなぜだろう、有協でもやって欲しいと思われたそうです。有協にも保健推進員や民生委員がいるので、そういう方がスタッフになれば可能ですということで、敬老会で時間をいただき「こういう会を作ったらどうですか。おためし会をやりませんか。」といったところ賛同いただけたので、ある日の夜公民館へ出かけていって保健推進員さんにお話をさせていただきました。しかし、結局、誰もやってみようという方がいなくて、農業をやっている方が多くて、こういう集まりをして体を動かさなくてもというようなことでした。これだけ高齢者がみえて、たった月2回だから、お楽しみの場があってもいいじゃないか、と申し上げましたが、なかなかスタッフになろうという人がいないまま5年近く経ってしまったわけです。

○石川英之委員

どなたが当時の館長で、保健推進員だったかわかりませんが、保健推進員でも嫌々やられていたのではないかと思います。私が知っている中には、もっと若くてやられた方もいるし、子どもが小さくてもやられた方もいます。おそらく嫌々やられていた方が、もうこれ以上いろいろな仕事をまわしてくれるなということだと思います。農業をやっているからということではなく、有協には菜の花クラブという耕作放棄地に菜の花やそばを植えたりしている会もありますし、そういったところに頭に浮かんでいるだけでも元気な方が数名いますので、その方をお願いしてやれば20人くらいは集まるのではないかと思います。ぜひ進めさせていたきたいと思います。

○地域ふれあい会

地域福祉課としては、予算的にも、もう一会場できてもいいという考えはありますか。

○杉浦地域福祉課長

これからの高齢化社会を迎える中、地域の声から立ち上がってくるのは大歓迎ですので、そのときは予算取りからしていきたい、来年度は予定があるわけではないということで、まずはボランティアからということをお願いしたいと思います。

○地域ふれあい会

修農地区と有協地区が、ここ数年のネックでした。できたらいいと思っています。

○地域ふれあい会

皆さん、保健推進員とおっしゃっていますが、この会と保健推進員の関係があるのですか。

○保健センター主幹

当初の立ち上げとして、保険センターの健康づくりのボランティアをやっていただいた体操の方、食改の方、保健推進員の方が中心となって、地域のために協力し合ってきて、地域の特性に合わせてだんだん増えてきています。保健推進員の制度がなくなってという話がありましたが、今は健康サポーターという手挙げ方式になりまして、気持ちのある方に健康を守る講座を受けていただいた後、健康サポーターに登録するようになって2年が経ちました。保健センターの託児や地域の区民展などで健康づくりのお手伝いをさせていただいているんですが、2年経ったところで地域ふれあい会についてもPRしていきたいと地域福祉課とも考えております。98人くらいの方が健康サポーターに今年度なりそうということで、年に数回勉強会を実施する中でPRしていきたいと思います。

○山田清一委員長

ここにいる議員は、この件についてまだまだ調査研究していきますので、気軽に声をかけ

ていただいて、可能な限り頑張っていきたいと思っております。最後に成田副委員長からご挨拶をさせていただきます。

○成田吉毅副委員長

今日は本当にありがとうございました。今日は地域ふれあい会の内容が入口ですけれど、随分分かりました。スタッフの問題は共通してあるのだということが分かりました。また、有脇地区の話もなるほど、とよく分かりました。今後とも調査研究を続けていきたいと思っておりますので、よろしくお祈りします。

○山田清一委員長

ありがとうございました。これで意見交換会を終わります。委員の皆さんは、引き続き委員会を行いますので、5分程度休憩します。

午前11時28分 休憩

午前11時34分 再開

○山田清一委員長

委員会を再開します。

私が調査してきました埼玉県和光市と東京都稲城市、そして千葉県浦和市の夢のみずうみ村浦安デイサービスセンターについて、その状況を委員の皆さんにお伝えしたいと思います。資料を配布させていただきましたが、はじめにびっくりしたのが、和光市長寿安心課の課長、そして稲城市福祉部の部長、お二人に共通点がありまして、市の職員でありながら厚生労働省へ出向していました。特に和光市の長寿安心課の課長は、厚生労働省で課長補佐としてやってきていて、その人が先を進んで国の制度がその方向にいつているという方でした。そこで、まず和光市で何度も言っていたのが、介護保険制度は地方分権の試金石なんだということでした。介護保険は保険者の政策能力がポイントだということで、自分たちの独自性をもって政策を決めていくということで進めてこられたそうです。徹底してスクリーニング地域診断に基づく戦略的取り組みということで、健康寿命100というものを実施して、そこから得られた情報を介護予防ケアマネジメントシステムで個人の情報をすべてシステム化している。スクリーニングされたものを施策に展開している、徹底した地域診断がなされているというところが素晴らしいところでした。その他に特徴的なところは、コミュニティケア会議ということで、各部署の連携が徹底していることでした。介護予防の観点では、栄養改善プログラムもそうなんです、事業が多くあるんです。閉じこもり予防事業でもいくつかあって、アクティビティアップ講座というのは陶芸やテーブルゲームなどということですが、テーブルゲームというのはカジノを取り入れている、最先端だったそうです。運動機能向上プログラムもいくつかのメニューがある。たくさんのメニューを持っているというところが素晴らしいところで、その効果もしっかり現われているということです。それを踏まえて要介護認定率も下がっているということで注目されたのが和光市の取り組みでした。稲城市は介護支援ボランティア制度ということで、創設目的は高齢者の介護支援ボランティア活動による地域貢献を積極的に奨励、支援することにより高齢者自身の社会活動参加を通じて介護予防を進めること、ということです。地域ふれあい会の皆さんが、私たちも参加者側だ、とおっしゃっていましたが、その年代の人が役員になっていることも、その方にとっては介護予防につながるので、今の地域ふれあい会のあり方はそういう形になりつつあるという感じがしています。また、制度提案のきっかけということで、高齢者の社会参加を政策として後押

しをしたということです。こういったボランティア活動が対象かということですが、レクリエーション指導、参加支援から、施設職員とともに行う補助的な活動に至るまで様々なメニューがある。設定金額はマックス年間 5,000 円、月当り 400 円程度ということで行っていました。期待される効果としては、社会参加活動などに参加する元気な高齢者が増え、ボランティア活動に関心が高まり、結果として介護給付費抑制が期待できるということであり、現在 424 人が登録されているということでした。介護支援ボランティアの受け入れ団体ということで、社会福祉法人から NPO、医療法人にわたり現在 19 団体が指定されています。介護支援ボランティア制度は、当時、国の法的にも実施できなかったわけですが、厚生労働省がこれに承認を得て全国に情報発信したということでした。夢のみずうみ村デイサービスセンターですが、皆さんと共に山口のデイサービスセンターへ行きましたが、造りは全く一緒でした。100 人規模ということで、かなり大規模な施設でした。今回行って何をしたかったかということ、利用者のお話を聞きたいと思っていました。そこで何人かの方に話をお聞きしてきました。皆さん、この施設ができて非常にありがたいということでした。自己選択、自己決定ということと、メニューがたくさんあるということで非常に喜ばれていました。浦安の場合は、市長がぜひ浦安にということなのでそこへ建てられたということでした。以上です。

それでは、皆さんと今後のことについて、日程調整をさせていただきたいと思います。これから委員会報告の方向性を皆さんと確認をしていきたいと思っておりまして、個々の視察の意見等はいただいておりますが、それを踏まえて全体的なところで皆さま方からご意見をいただく場を設けたいと思っています。

しばらく休憩します。

午前 11 時 48 分 休 憩

午前 11 時 49 分 再 開

○山田清一委員長

委員会を再開します。

2 月 23 日が定例会初日ですが、議案審査の委員会がありますのでその後に行いたいと思います。そこで意見集約をしていきたいと思います。流れとしては、皆さんにご意見を伺った後に、3 月定例会終わるころまでに正副委員長で委員会報告案を作成させていただいて、その後皆さんにお諮りしたいと思っています。いかがでしょうか。

○中村宗雄委員

そういうやり方をしますと時間ばかり多く使ってしまうと、最後は意見を選んでいくしかないと思います。個々の意見は視察後のレポートで出ているわけですから。委員会報告のたたき台を出していただいてそれを協議した方が現実的だと思います。そうしないと、レポートと同じことをもう一回やるだけのことになりますので、発展性がないと思います。いかがでしょうか。

○山田清一委員長

中村委員からご意見がありましたが、現時点で正副委員長で報告案を作成して皆さまにお諮りするするという形でよろしいでしょうか。

【異議なし】

そのように進めさせていただきます。3 月定例会最終日の 22 日までに案をお配りして、その後に委員会を開きたいと思います。

しばらく休憩します。

午前11時51分 休憩
午前11時52分 再開

○山田清一委員長

委員会を再開します。

次の閉会中の委員会は、3月29日（木）の臨時会終了後、もし臨時会がなければ午前9時30分から開催することにします。

これで文教厚生委員会を閉会します。

午前11時53分 閉会